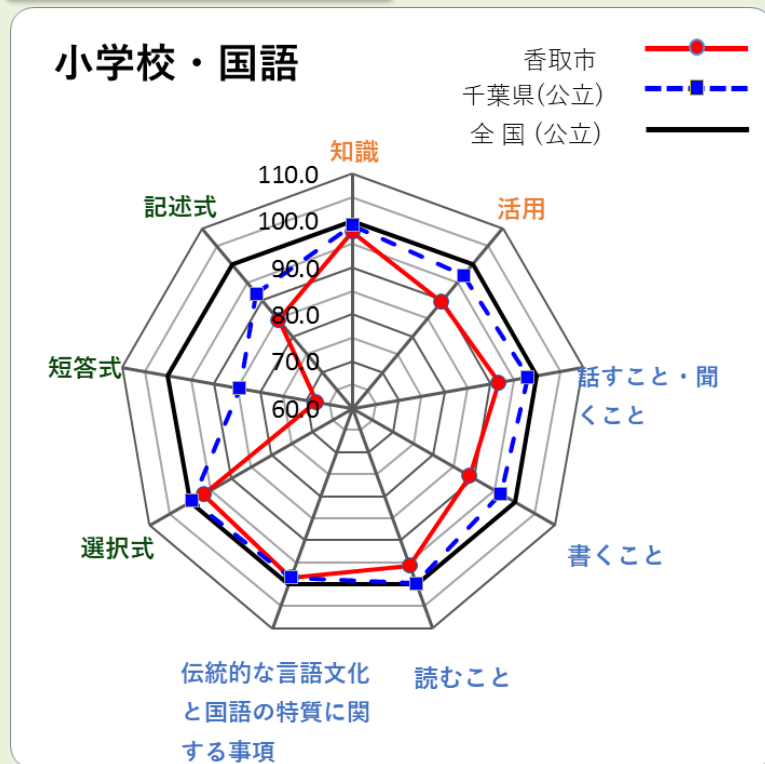


(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を100として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校の傾向と課題



「知識」は全国平均と同程度で、「活用」は全国平均を下回っています。

領域別では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均と同程度でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回り、課題が見られます。

問題形式別では、「選択式」が全国平均と同程度で、「短答式」、「記述式」に課題が見られます。

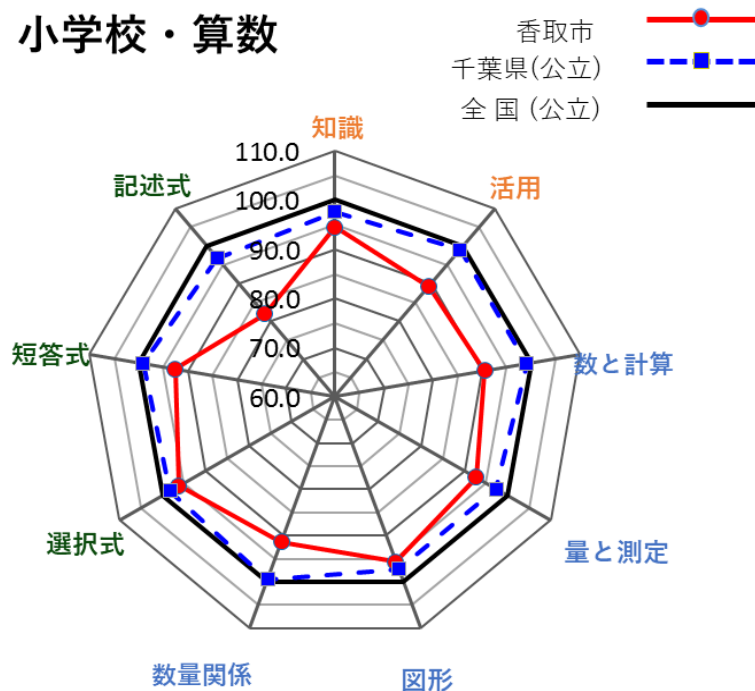
課題が見られた主な問題

- 国語A5 春休みの出来事について書いた文章の一部を読んで、主語と述語のつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。
香取市24.1%（全国35.5%）
- 国語B1三 言葉の使い方に関する話し合いの中で、他者の意見を聞いて自分が考えたことを書く。
香取市23.6%（全国33.8%）
- 国語B2一 「かみかみあえ」という献立を紹介する文章を基にして、各家庭のメニューに取り入れてもらうために書いた推薦文を読み、その冒頭部分の目的や効果として適切なものを選択する。
香取市47.9%（全国57.6%）

力を入れたい学習

- 文章を読むときも、主語と述語の関係を意識するようにする。また、自分で書いた文や文章を主語と述語の関係に注意して読み返すようにする。
- 司会などの役割を決めて話し合い、互いの考えの共通点や相違点について整理する。
- 文章の特徴を捉え、文章全体の構成の効果を考えて書くことができるようにする。

小学校・算数



「知識」、「活用」とともに全国平均を下回っています。特に「活用」に関して課題が見られます。

領域別では、すべての領域で全国平均を下回っています。特に、「数と計算」「数量関係」に課題が見られます。

問題形式別では、特に「記述式」が課題となっています。

課題が見られた主な問題

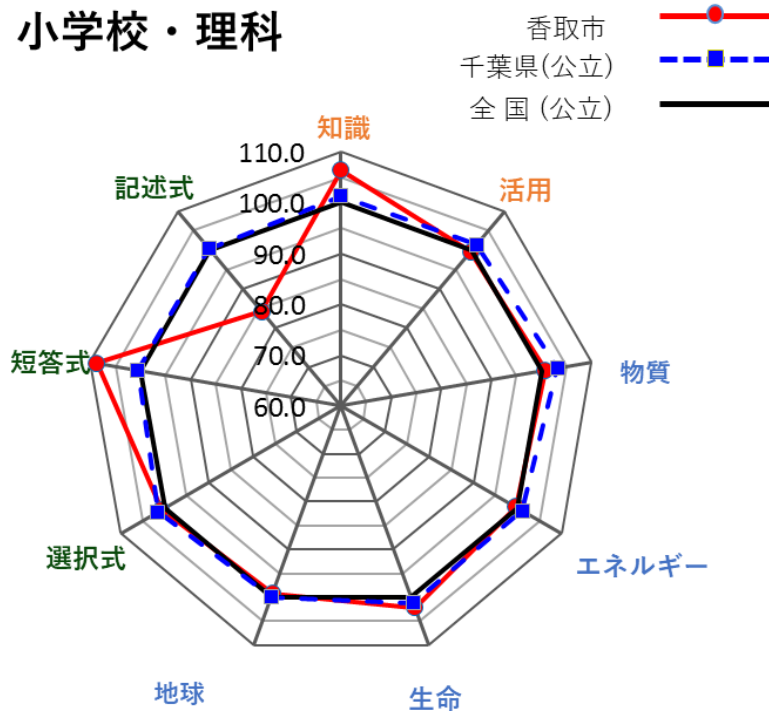
- 算数A1(1) 0.4mの重さが60gの針金について、長さが0.2mの場合の重さと、0.1mの場合の重さを書く。
香取市56.8% (全国62.9%)
- 算数B1(2) 一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360度になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に、言葉や式を用いて説明する。 香取市36.7% (全国48.2%)
- 算数B4(1) 「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す。
$$32 + 40 = 4 \times 8 + 5 \times 8 = (4 + 5) \times 8$$

香取市51.8% (全国62.7%)

力を入れたい学習

- 二つの数量の関係を理解できるよう、図や数直線に表して確認する活動を設定する。また、具体物を用いることで実感をもって理解できるようにする。
- 図形の構成要素や性質を基に、筋道立てて考え、事柄が成り立つことを説明できるようにする。例えば、合同な正三角形で敷き詰められているとき、敷き詰められた図形の一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360度になることを言葉や式を用いて説明する活動などを設定する。
- 数量の関係について論理的に考察したことを、式を用いて表現できるようにする。例えば九九の表において4の段と5の段の縦に並んでいる二つの数の和が9の段の数になる理由について、分配法則を用いた式で表現する活動などを設定する。

小学校・理科



「知識」は全国平均を上回り、「活用」は同程度で、全体的に概ね良好といえます。

領域別では、「生命」が全国平均を上回り、他は同程度でした。

問題形式別では、「短答式」が全国平均を上回りましたが、「記述式」に課題が見られます。

課題が見られた主な問題

- 理科 1 (2) 鳥の翼と人の腕のつくりについてまとめた資料から、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ。
香取市 71.3% (全国 76.2%)
- 理科 2 (2) 流れる水の働きによる土地の浸食について調べる実験において、自分と異なる他者の予想が正しい場合に考えられる実験結果について選ぶ。
香取市 50.7% (全国 55.4%)
- 理科 2 (3) 一度に流す水の量と棒の様子の関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。
香取市 14.1% (全国 20.1%)

力を入れたい学習

- 調べた結果を基に考察する際、問題に対応した視点で分析できるようにする。問題を明確にして結果から必要な情報を適切に選択・整理できるようにする。
- 実験を構想する際、どのような予想を確かめたい実験なのかを明確にし、実験方法の妥当性や得られる結果の見通しについて児童同士で話し合う場面を設定する。
- 観察や実験の結果を基に、事実(条件と結果)と解釈(結果から考えられること)の両方を整理して、説明する活動を設定する。